



植物の写真の撮り方

特別講演会

講師は 永田芳男氏



11月20日午後2時から、秋の特別展“神奈川の植物”にちなんだ講演会が開かれた。講師は“県の名木百選”や“北岳のお花畠”を出された永田芳男氏（植物写真家）である。

—おー—

道具について（カメラとフィルム）日本の小型カメラは世界的にみても優秀で、通称バカチヨンでもそこそこに撮れる。がよりよいものを撮りたかったら、露出・絞りを操作できるものがよい。自分のイメージに近い幅と奥行きが出せる。フィルムも選びたい。フィルムにはネガ（紙ヤキ）とポジ（スライド用）の2タイプがあるが、前者は適性露出してなくても現像焼付けの段階で修正できる。何より使い易いものだ。後者は深みのある美しい画面は得られるが、露出の許容（寛容度）がせまいから、度合せに工夫がいる。おすすめはフジクロームRDPだろうか。コダックエクタクロームより深みはないが、ほぼ同等の画像を得ることが出来る。ただし花の色でもリンドウ系の青紫とフラミングピンク（トキ色）の再現は難かしい。

プラネタリウムを
お休みします

○プラネタリウム投影の休止について
プラネタリウム投影機の更新のため、
次の期間の投影を休止いたします。
昭和64年1月から4月上旬頃まで

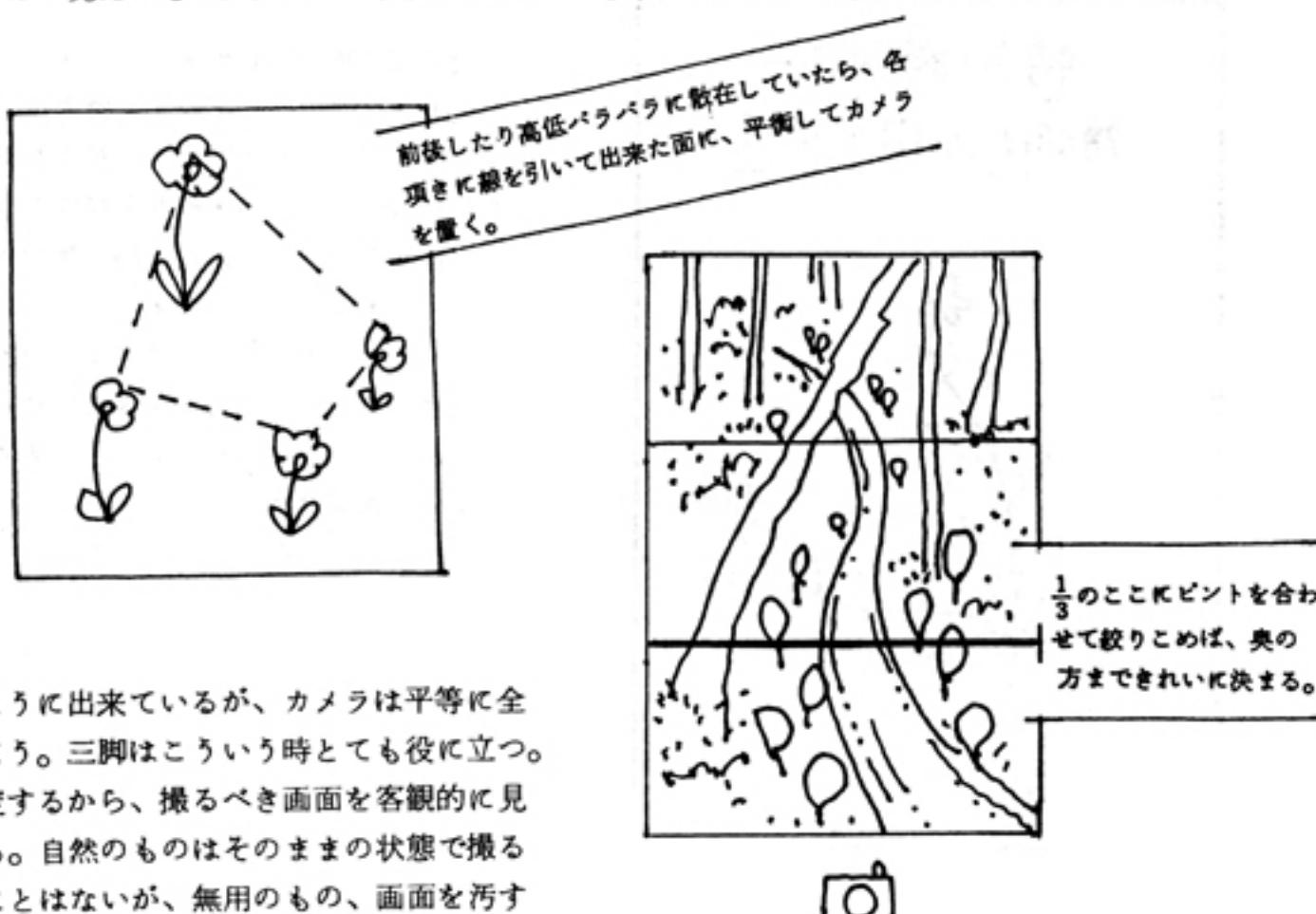


花（被写体）とのかかわり方 写す時、植物図鑑用なのか、記念のためか、カレンダーに使うのか、はっきりわきまえておく。

花に近づくアップはともかく、遠くにひくにつれて、まわりのものがなだれ込んでくる。人間の目というものは“見たいものがクローズアップして

質問のなかから 花の撮影にフィルターは不^レ用。順光線より斜光線の方が花の立体感が出るようだ。そしてビーカンの晴天より雨や雲り日の方が光りは柔かい。雨なら雨の風情のものを撮る。風があると花は駄目だというが、風の息づかいをみて待てばいいのだ。どんな風でも吹き放しといふことはない等々。

北は礼文のレブンウスユキ草から南は阿蘇のキスミレの群落まで150枚のフィルムのなかに、その花のその草の表情が、陽気な日射しや雨の中で、荒くれた岩のはざまで、冷たい雪をかぶって、愛らしく清らかに、また健気にしなやかに写し取られていた。大きな自然に対したとき、どこに自分の関心が向き、それをどう切り取るか、何を主題として画面を構成するか。この辺に、写す側の個性というかお人柄が出るのかも知れない。



見える”ように出来ているが、カメラは平等に全部見てしまう。三脚はこういう時とても役に立つ。視界を限定するから、撮るべき画面を客観的に見せてくれる。自然のものはそのままの状態で撮るにこしたことはないが、無用のもの、画面を汚すものはとり除くに限る。次にどこから見たら一番美しいかを探すこと。正面か右か左か。花の周りを一巡りしたら、上下に視点を変えてみる。高さによって花は違った表情をみせるからだ。バックに山や岩や草を入れたいなら、とくによく見極めること。1つの花に少くとも3枚撮る心積りであつて欲しい。いい花、撮り易い花を探すというのも、いい写真をとる条件である。(以上、講演要旨)

この日の参加者72名。会のあと、守矢先生はじめ、撮った写真を持ってきた方々は助言していただき、どこにいつ何の花が咲くか等の情報交換があった。ご本にサインをお願いする方もあって先生を囲んだ小さな輪は、いつまでもさざめいていた。(和田)

火星観測記(その2)

9月に入り、9月22日の最接近を目前にひかえ、火星像は次第に大きく、赤い輝きはいつそう強く感じられるようになってきた。

9月9日

久しぶりの晴れ間、といつても雲が多い。気をつけていないと、いつのまにかうす雲の中に入っている。カメラのファインダーをのぞいていると火星の減光がよくわからず、露出不足になってしまふ。火星はだいぶ丸くなつた。8月までの火星は満月前の13夜の月のように見えていたが、満月のように欠けている部分が少なくなった。大気の乱れも少なく、大シルチスが夜明けをむかえている光景が見える。この付近は朝靄が出るのだがはたして写るかどうか。まずカラー1本撮り、続いて白黒で大シルチスが自転によって中央に出てくる様子を撮る。午前0時、日付が変わった。カメラのデータバックの日付は10日となる。

9月20日

大接近まであと2日。といつても視直径はそう大きく変化はしない。23、7秒。さすがに大きい。肉眼で見る時は約400倍にするが、もつと上げないとまぶしく、淡い模様がかき消されてしまう。700倍まで上げて見たが、ややコントラストが悪くなるものの、ちょうど良い明るさだ。地形はシーレーンの海付近だが、小さな望遠鏡で見る火星面では一番おもしろくない所だ。北半球にはオリンポス山があるが、雲がかかる時は白く輝やくのだが、よくわからない。火星は今、ちょうど冬至の時期である。南半球は夏をむかえることになる。南極冠はどんどん小さくなっているが、まだはっきりと見える。8月下旬には分裂して消えてゆくのも見られた。完全になくなるのは11月中旬頃。南極冠の減少の過程も写真で記録していきたい。シーレーンは8月に撮りそこなっているのでここで何とか記録できそうだ。



9月9日の火星 大シルチス付近

10月4日

9月までの不順な天候も10月に入ってどうやら終わりを告げたようである。このところ、毎日天気が良い。大接近を過ぎたが、まだまだ大きく見えている。北極付近のモヤも良く見えている。北極冠ができ始めるのは11月下旬の頃だからまだ見えないし、見ることもできないだろう。それは、火星は中央の緯度が-20度付近を見せており、北極地方は像の背後にかくれていて見ることができないからである。天気は良くなつたが、像はあまり落ち着かなくなつた。ピントをばかすと上空の気流がかなり早く流れているのが見える。夏のような良い天気状態はもう望めそうにない。太陽潮が見える。これで有名な火星面のようすはすべて記録できたことになる。火星の模様は接近する度に少しづつちがって見える場合が多い。今回の記録をもとに、火星面の変化を見ることができるようになるだろう。(鷹)

****行事案内****

12月

2	金	星を見る会 "木星と冬の星たち"
3	土	古文書講読会／土曜観察会
10	土	石仏を調べる会
17	土	古文書講読会
18	日	相模川を歩く会
24	土	石仏を調べる会
25	日	体験学習 "おかざり作り"

- ・寄贈品コーナー：写真展 "古い写真"
- ・プラネタリウム："望遠鏡新時代" 25日まで

1月

7	土	古文書講読会／土曜観察会
14	土	石仏を調べる会
14～15 天体観察会 "月光天文台" 見学		
21	土	古文書講読会／土曜観察会
22	日	自然観察会 "自然保護センター" 見学
28	土	体験学習 "星座早見を作ろう" 石仏を調べる会
29	日	相模川を歩く会

- ・寄贈品コーナー："ヘビとカエル" 展
(64年1月5日～1月30日まで)

●自然観察会 "自然保護センター"

冬を越す動植物を観察します。

日：1月22日(日)、8～16時(雨天中止)

所：県立自然保護センター(厚木市七沢)

費用：交通費(平塚から大人往復約1,000円)

申込み：1月15日までに往復ハガキで。多数の場合は抽選で30名まで。

●体験学習 "星座早見を作ろう"

星座早見盤を作つて、星空の下で使ってみます。

日 時：1月28日(土)15～19時

場 所：博物館科学教室・屋上(または前庭)

参加費：200円(材料費)

申込み：往復はがきに、住所・氏名・年令・電話番号を記入の上、1月20日までに博物館へ。



●1月寄贈品コーナー "ヘビとカエル" 展

1989年は巳年。それに因んでヘビの資料とその餌になるカエルの資料を展示します。カエルは2年間にわたつて"みんなで調べよう"で調査した市内の分布図も展示します。



年末年始休館のお知らせ

博物館の年末年始の休館日は次の通りです。

12月28日(水)から1月4日(水)まで

来春は5日の木曜日から開館いたします。お元気でよい年をお迎えください。